
私篇 『続・のだめ』 リュカ

瓢六玉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私篇 『続・のため』 リユカ

【Nコード】

N3364L

【作者名】

瓢六玉

【あらすじ】

指揮者コンクールで優勝したリユカは、のためを共演者に指名した。

リュカは指揮科に転科してから、成績優秀につき、飛び級でコンバトを卒業した。

そして翌年、若干十八才で応募したプラティール二指揮者コンクールで、史上最年少で千秋と同じく優勝を果たした。

そして、彼は、デヴュー・コンサートで、のだめを指名した。
(いつか千秋を越えて、のだめと共演する・・・)

という彼の野望は、二十歳を待たず実現することとなった。

今や、のだめを越す背丈となり、りりしい金髪碧眼の少年は、華麗なジャンを一回り若くしたような容貌となった。

のだめはリュカにマルレ・オケでやってくれることを希望した。彼は、常任が千秋であることを気にしていたが、のだめが望むオケがいちばんいいと割り切って、そうすることにした。

マルレにとって、のだめは常任指揮者の妻なので、今や、かつて「ボレロ」のエキストラで歓迎されたルイのような立場にあった。

曲は、かつて千秋&ルイに先を越され、悔し涙を流した、あのラベルのコンチェルトを選んだ。

そして、千秋がピアノの弾き振りをして、のだめが「ずるい」と落ち込んだバッハのコンチェルトもやろう、ということになった。なんだから、リベンジ・コンサートの様を呈していないでもなかった。

共にコンバトで学んだリュカは、ある意味、同じ音大で学んだ千秋との関係に似ていないこともなかった。もっとも、彼は、のだめの十も歳下である。

コンバト在学中は、音楽学者を祖父に持つリュカのほうが圧倒

的な音楽的素養を有していたが、のだめが幸運にも巨匠とデヴューを果たして以来、知名度においては逆転していた。

それでも、才能を重んじるヨーロッパでは、最年少優勝という話題が、観客の感心を惹くのに十分であった。

まして、あののだめの学友にして親友、子ども心に千秋真一にライバル心を抱いているという噂も十分に人々の興味を惹いた。

新人指揮者のデヴュー・コンサートにしては珍しくチケットは即日完売となった。

それが、のだめの知名度に負うものであることは、リュカも十分解っていた。

それより何より、人間的にも、音楽的にも、自分の大好きなこの東洋の魔女・のだめと共演できることがリュカにとっては嬉しくてならなかった。

コンサート当日、会場にはリュカの祖父の顔もあった。この爺様には、のだめも個人的に対位法の教示を受けたことがある。

のだめの恩師オクレール先生もマジノ先生も、一観客としてのだめの成長ぶりを楽しみにしていた。

そして、今やマドモワゼル黒木となったターニャと黒キン夫妻も、婚約したルイとフランクたちも客席にそれぞれ陣取っていた。

「奥さん。そろそろ出番です」

テオが楽屋に迎えにきた。

リュカはすでに舞台袖でのだめを待ちながら

「のだめ。楽しい音楽をやるうね！」

とウィンクしてみせた。

「ウイ」

とのだめは、やんちゃな弟にウィンクを返した。

「パンツ！」

という鞭の音で軽やかなコンチェルトが始まった。

と同時に、色とりどりの音の粒がのための指先からあふれでた。まるで、森のありとあらゆる小動物がピアノのまわりを駆けつこしているかのようなファンタジックなフレーズが次からつぎと紡ぎだされた。

思わずオクレール師の頬が緩んだ。

（そうだよ。メグミ。

これはラベルのモジャモジャ組曲なんだ）

とマエストロは、かつての「ベーベちゃん」に心のなかで語りかけた。

リユカの十代とは思えぬ颯爽としたバトン捌きにオケは生きいきと応え、清冽なアルプスの湧水のようなクリスタル・サウンドと、のためのパール・サウンドとが互いにぶつかり合い融けあつて輝いていた。

千秋も客席の最後列の片隅で、コンバト・コンビの若々しい弾けるようなラベルに惹きこまれていた。

それは、自分とルイが作り上げたものをさらに上いくコンチェルトのように思えた。

のためは、もはやルイを意識してガムシヤラにやろう、などという気負いは微塵もなかった。

なぜなら、自らも、ロンドンでの鮮烈なデヴューと大成功でルイに匹敵する名声を得ていたし、そして、何よりもルイと違ったのは、彼女が望んで得られなかった名伯楽シャルル・オクレール師匠の薫陶を十二分に享けていたからである。

のための持つ野性的勘と超絶技巧、師に叩き込まれた深い音楽解釈法、千秋から吸収した音楽と正面から向き合う態度、そしてミルヒーから学んだ音楽を楽しむ心、などなど…。

のためほど環境に恵まれた音楽家も稀有と言えるかもしれない。

曲の終焉と共に聴衆は総立ちとなった。

嵐のような拍手のなかで、アシスタントのマジノが、つぶやくともなく教授に言った。

「あの子。本物の音楽家になりましたね・・・」

オクレールは、深くうなずくと、小声で

「ブラーバ！　　べーべちゃん！」

と教え子の成長を祝福した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3364/>

私篇 『続・のだめ』 リュカ

2010年10月15日21時06分発行